

弘前城天守は
石垣改修に伴う
曳屋工事により
77.6メートル
移動しました！



参画だより

弘前市マスコットキャラクター『たか丸くん』

No.63

2017. 11. 30

弘前市民参画センター



PICK UP!

男女共同参画の視点で読む
世界の格言・名言

一粒の木の実は、
いくつもの森を生む
エマーソン



弘前市民参画センター事業紹介「平成29年度第1回ひとにやさしい社会推進セミナー」 P 2

「弘前市女性活躍推進企業紹介」 P 3

まなぼ「それでも働きたい ～女性の選択～」 P 4

おとこの気持ち聞いちゃいました「昔も今もエレキテル大好きな人」 P 5

さんかくひとりごと「知らなかったこと…」 P 5

ひとグループ
男女・団体紹介「津軽の女性たちのように積極的にチャレンジ！」 P 6

利用者・利用団体紹介「あすなろ友の会 津軽支部」ほか P 7

本の紹介「えんとつ町のプペル」 P 8

センターからのお知らせ P 8



平成29年度第1回ひとにやさしい社会推進セミナー



講師の内山瑞穂さん

7月14日、平成29年度第1回ひとにやさしい社会推進セミナーを市民会館で開催しました。

今回のセミナーは、企業研修J・Kenshu代表の内山瑞穂さんが、女性理論講座「BOSSE塾」・男性上司のための女性活躍マネジメント入門」と題し講演を行いました。

◆なぜ女性のことを知るべきか

内山さんは、孫子の謀攻編『彼を知り己を知れば…』を引用し「相手のことも自分のことも知っていれば大丈夫。喧嘩せずにコミュニケーションができればマネジメントも楽になり、会社も良くなる」と話し、職場の人間関係の改善や会社の業績アップのためになると知ることの必要性を語りました。

◆男女の違い

男女の原点は狩猟時代にさかのぼると内山さん。「男性は縦社会。他者との戦いの中で自分を優位にすることがコミュニケーションの

目的。女性は横社会の中でみんなで子育てをして共感するのが目的」と説明。「男性と女性は互いの役割を全うするために、体も脳もホルモンの分泌も違う生き物」と脳科学等を使い行動理由等からも男女の違いと対処法を紹介しました。

◆女性はなぜ感情的になるのか？

男性に女性について困ることを聞くと『すぐヒステリーを起こすこと』との回答が多い。逆になぜ男性は冷静なのか？「それは女性の場合セロトニンという脳内を癒すホルモンの分泌量が52%も男性より少ないため、細かくて心配性になる」と解説。脳にも大きな違いがあり、左右の脳を繋ぐ脳梁（のうりょう）前交連は女性の方がより太いため情報伝達が活発で、色々な事を同時進行できるが、情報を処理しきれなくなるというマイナス面もあると紹介。「女性は特徴として気持ちを溜めこみやすく、何かの拍子に爆発させパニックになる」と感情的になる原因を説明。「そうならないように普段から女性の相談に乗ってあげることが大切」と語りました。

◆なぜ相談に乗っても言うことを

聞かないのか？

内山さんは、男性は相談されると話を整理してアドバイスをするのが役目だと思っていると話した上で「女性の相談とは気持ちの整理をさせてというコミュニケーションの手段であり、共感を求めているだけ」と話し、9割方解決は不要であると話しました。

◆なぜ困らせる質問をするのか？

家庭で『仕事と私どっちが大事なの？』『職場で『仕事辞めさせてください』と言われたらどう対応するべきか。家庭の場合『寂しい思いをさせて悪かった』と謝る。職場の場合『辞められたら困る』と伝えると良いと語り、理由について内山さんは「どちらの場合も不安を抱えている女性が自己重要感の確認をしている。家庭では寂しさへの共感、職場では自分は必要とされているかという確認をしている」と説明。「常日頃から自己重要感を高めるための声掛けをすることが重要。仕事を褒めるときも女性は結果より過程を褒めると喜ぶ」とアドバイスしました。

◆絶対平等と相対平等

絶対平等について、えこひいきは女性の場合敏感なので絶対してはいけないこと。また、えこひいき

きは脳幹が反応し命の危険があると話し「平等でない」と出る杭は打たれ、職場でいじめの原因になる。原因はマネジメントにあるので平等に扱うこと」と助言。相対平等とはチャンスは平等に扱うが、その能力に対して相対的平等評価をすることと説明。「誰が見てもよくわかる人事考課システムを導入してみても」と提案しました。

◆好かれるリーダーに

内山さんは「女性は会社のため働くというより、自分が好きな人のために役に立ちたいという気持ちになり、自己重要感を高めてくれる人を好きになる。『嫌われてもいい。それが自分の仕事』と思う人もいるかもしれないが、嫌われる努力よりも好かれる努力をマネジメントするべき」と述べ来場者に「素敵な上司になってあげて欲しい」と呼びかけました。



男性のみならず女性も多数参加。来場者は女性の特徴について語る内山さんの講演に、職場作りの参考にしようとして聞き入っていました。

★弘前市女性活躍推進企業紹介★

平成29年1月にスタートした「弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（女性活躍推進企業）」ですが、平成29年11月6日時点で32社が認定されました。弘前市は、女性の雇用環境を改善し女性の個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に向けて、女性従業員の活躍推進に積極的に取り組む企業等を「弘前市女性活躍推進企業」として認定しています。

認定マーク



今号も、認定された企業の中から15社の取組内容をご紹介します！

認定番号	企業名	取組内容（一部）
第16号	猪股建設株式会社	「行動計画」を策定し、女性が働きやすいように雇用環境を整備している。現在は女性が少ない職場であるが、女性目線に重点を置き環境改善や作業の効率化に取り組むことを明記し積極的に職場環境を整えている。
第17号	株式会社 マル長	女性のスキルアップにつながる資格取得の支援に積極的に取り組んでおり、事務職の女性であっても解体工事施工技士の試験を受験させる等、女性のスキルアップを幅広く支援している。
第18号	株式会社 永澤興業	ポジティブ・アクションに早期から取り組み、男性上司と女性従業員との直接の話し合いの場を設ける意見交換会を毎月開催し、女性従業員の声が届き働きやすい職場環境を整備している。
第19号	鎌田設備工業株式会社	女性が活躍できる仕事であり女性専用の休憩室を完備している旨を求人票に記載し、女性が働きやすい企業であることをPRして女性の入職拡大を積極的に図っている。
第20号	株式会社 東管サービス	スキルアップのための資格取得に向けた研修費等の費用の支援を行っており、合格した女性が主任技術者として活躍している。
第21号	株式会社 相馬土木	出産休暇・育児休業・介護休業中であっても昇格・昇任の対象とする旨規則で定めており、出産や育児、介護が昇格・昇任の上で妨げにならないようにしている。
第22号	興産設備工業株式会社	育児休業を理由とする昇格・昇任における不利益な取扱いを禁止する旨を就業規則に定め、結婚や育児などが昇格・昇任の上で妨げにならないようにしている。
第23号	嶽開発株式会社	女性の雇用に積極的に取り組んでいる。子の看護休暇を男性社員が取得しており、男性の育児参加を会社として応援し、男女がともに働きやすい職場環境づくりを進めている。
第24号	株式会社 日本政策金融公庫 弘前支店	女性活躍推進に向けた取り組みとして「女性のキャリア開発」「ワークライフ・マネジメント支援」「職員による積極的な活躍推進」を3つの柱として実施している。
第25号	弘鉄電気工事株式会社	2年間で女性を2名（特に女性技術者）を採用する雇用計画の作成や「女性の技術者を育てていきたい」と自社ホームページに記載する等し、女性の雇用へ積極的に取り組んでいる。ハラスメント等の相談窓口となる担当職を定めている。
第26号	株式会社 小山田建設	「育児・介護休業等に関する規則の規定」中にハラスメントの防止についての特記ページを設け、ハラスメントの防止に力を入れている。
第27号	株式会社 共同設備	女性従業員にヒアリングを行い現在の職務以外への配置転換の希望を募り女性の職域を拡大することを目標とした雇用計画を作成し、多くの女性が活躍できる働きやすい環境整備に取り組むこととしている。
第28号	共立設備工業株式会社	女性に対して積極的に研修を行い、女性が活躍できる部署への異動及び管理職への登用を効果的に行うものとしている。出産や育児、介護が昇格・昇任の上で妨げにならないようにしている。
第29号	富士建設株式会社	女性専用の更衣室及び休憩室を完備し、施工現場には女性専用の仮設トイレを設置する等、女性が働きやすい環境の整備に積極的に取り組んでいる。
第30号	弘前ガス株式会社	正規社員を採用した過去4箇年において、いずれも女性の正規社員を採用した実績があり、女性の雇用に積極的に取り組んでいる。ハラスメントの相談窓口となる担当者を定め、社員の相談や意見、要望を受け入れる体制を整えている。

弘前市女性活躍推進企業（第16号～第30号）

まなぼ

このページは男女共同参画についての学びを深めようということから企画されているページです。



今から70年前に施行された日本国憲法。憲法に初めて男女平等がうたわれ、女性たちは未来が開けると期待したという。それから70年、男女平等が常に問われてきたのが労働現場である。その労働現場で闘ってきた女性たちがいて、今の女性労働者があるのだと思う。前号に続いて暮らしと憲法について考えたい。

(NHK「暮らしと憲法 第1回 男女平等は実現したのか」から)

それでも働きたい ～女性の選択～

◎結婚退職制は無効であると日本で初めて裁判を起こした人

1950年代、日本は高度経済成長期に入った。労働力不足から女性の職場進出が一気に進んでいった。しかし、女性たちはお茶くみなど男性の補助的な業務しか任されず、若いうちに退職するのが当たり前だとされてきた。女性が長く仕事を続けられないことに強く疑問を持った人がいる。1960年に地元の会社に入社した彼女はある書類にサインすることを求められたという。

「結婚したら退職すること。結婚しなくても35歳で退職すること」そのような念書を入社後に書かされた。入社3年後に結婚、新婚旅行から帰っていつもの通り出社すると、2～3日後に「あの念書の通りもう来なくていいんだよ」と言われ、机を片付けられたという。「私は働きたいんです」という彼女に「念書を書いたでしょう」のひと言。結婚退職制は違憲であり解雇は無効であるとして会社を相手に、この問題について全国で初めて裁判を起こすことになる。会社側は「女子が結婚した場合においては、家庭本位となるのが現実であって、注意力、根気、正確性などが低下する傾向にある。本件採用条件は何ら性別を理由とする差別的取扱いでないばかりでなく合理的な制度なのである」と主張した。裁判で彼女を担当した弁護士は、「当時、女性は若いうちだけ低賃金で雇用される傾向があった」と言い、「女性は職場の花 枯れないうちに生けかえろ」という川柳のような言葉があり、「女性は花程度の役割だった。その程度しか期待されていない存在だった」と話す。1966年結婚退職制は憲法違反だと判断され、この裁判は勝訴した。「女子労働者のみにつき 結婚を退職事由とすることは 性別を理由とする差別をなし かつ 結婚の自由を制限するものである」と…。この裁判の勝訴に励まされ全国各地で次々と裁判が行われた。しかし、企業の結婚退職制や女性の早期定年制度はなかなか無くならなかった。1970年代、サラリーマンの家庭が増え、夫が会社で働き専業主婦がそれを支える「男性稼ぎ主モデル」が確立した。男性稼ぎ主モデルは男女の役割分業という社会意識の上に成立していた。そのため圧倒的に女性だけが育児、家事に携わる割合が多かった。

◎男女雇用機会均等法への道のり

女性の大学進学率が上がりずっと働きたいという女性が増えたが、女性には厳しい状況が続いていた。この事態を打開するきっかけは世界の潮流から始まった。1979年国連で「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」が採択されたのである。日本が条約に批准するためには男女の雇用を平等にする法律を作らざるを得なかった。1983年から法律づくりに取り掛かるが調整は難航し、1986年ようやく「男女雇用機会均等法」施行にこぎつけることとなった。

～参考 日本国憲法 第14条～

第14条 すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。

Q. 男女共同参画という言葉を知っていますか？

A. 知っています。

Q. 家事を手伝っていますか？

A. はい！！食器をふくこと。（えっ！？梅子、肩透かし！！）

Q. 女性のリーダーをどう思いますか？

A. 良い人なら良い、困った人は困る。男女ともこの件は同じ。

Q. パートナーが必要だと思ったときはどんなときですか？何歳ぐらいのときですか？

A. 20歳ぐらいのころ。とにかく早く自活したかった（昔は家庭を持つことが独立すること）。

Q. あなたの業界では女性の割合はどうですか？

A. 建築設計に女性は多くなってきている。今は電卓、パソコンが出てきた。自分が建築士（一級）になったころ（1970年代）は無かった。

Q. 奥さんと一緒にしていることは？

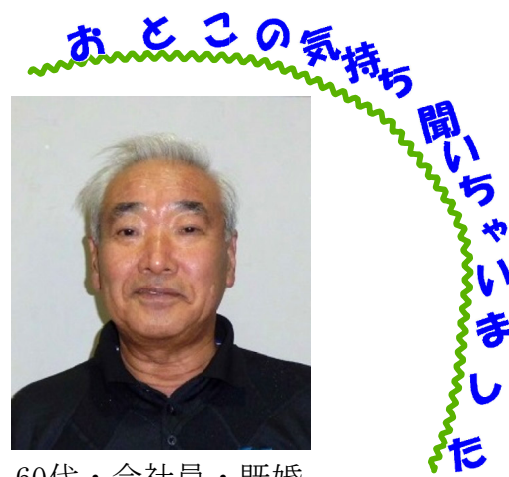
A. 雪囲いとかは下手に手伝うと「余計なことしないで」としかられます。あとはソフトバレーボールを週1回ふたりで参加して汗をかいています。

Q. 現役を引退したら、何をしたいですか？

A. 自営業だからもう引退しているようなもの。

Q. 最後にこれからの若いカップルに望むことは？

A. “結婚しなさい” すれば何とかかなるから。



60代・会社員・既婚

インタビューを終えて

～昔も今もエレキテル大好きな人～

いろいろな会長を何年もしてきたので、大勢の人の前で話すことが多い。穏やかな口調で難しいことを分かりやすい言葉で話してくれるのだが今日は違う。どうも理系男子が出たようだ。若いころはビートルズファンで、蓬莱橋の近くでエレキバンドで活躍していたとか…。今は仕事でパソコンを操って従業員のように使っているようだ。それにしてもエレキを弾いてステージに立っている姿を見たかったなー！ 梅子

～知らなかったこと…～



☆タクシーの中で発見！

タクシーの中で「園児募集」と書かれたチラシを見つけた。ドライバーに話を聞くと「自社で作った保育園です」とのこと。企業で保育園を作るという話はよく聞くが、身近にもあったことに驚いた。0歳から2歳児まで預かってくれるという。「働く女性を応援します！」という文字に女性が働きやすい職場なのだろうと思った。社員の子どもだけではなく一般の子どもも預かってくれるとのこと。社員の子どもは保育料が無料である。保育園探しに困っているお母さんにとっては朗報だと思った。ドライバーの話では社員の子どもが体調を崩したときはすぐに仕事を離れることができるシステムになっているのだという。なんとありがたいことだろう。上司や同僚に気兼ねしながら帰ることがないなんて!!

☆フラリーマン???

働き方改革が進み残業が減ったにも関わらず、退社後自宅へはまっすぐに帰らないという「フラリーマン」なる人たちが増えているらしい。これには「賛否両論」で、子育て中の女性からは「許せない!」「イライラした!」「私は自分の時間もなく育児に追われているのにもってのほか!」など厳しい言葉が…。また、当の本人たちからは「ストレス解消になる」「自分だけの時間が欲しい」「早く帰っても邪魔になる」など…。主婦からは「毎日でなければ」「許可をとって!」など…。

世の中も少しずつ変わっている。女性に働きやすい職場を提供しようと子育て支援に乗り出す企業。自分が子育てしていたころは「あったらいいなあ」くらいで実現するなんて思いもよらなかった。少し前にもまっすぐに帰らないサラリーマンが増えたという特集をしていたが、そのときはまだ「フラリーマン」という呼びかたはなかったのにそのネーミングに思わずクスッと…。でも、「残業だ」という嘘はどうなのかなあ？



津軽の女性たちのように

積極的にチャレンジ！

✪ 弘前に来たきっかけ

2016年4月に弘前に来ました。生まれも育ちも千葉県の私がなぜ弘前に？と思う方もいるかもしれません。小中高と地元 학교に通い、大学は神奈川県にキャンパスのある私立大学へ進学をし、農業系のサークルに所属します。このサークルの活動先が、鯉ヶ沢町のある集落でした。サークルの活動をきっかけに、津軽地域への関わりが多くなり、いつしか津軽地域に住んで働いてみたいと思うようになっていました。社会人1年目は、地元千葉県で働いていましたが、会社を辞め、転職活動をしている時に弘前市の地域おこし協力隊の募集を知り、応募。採用され、弘前に来ました。



岩木山登山で自然を満喫！

✪ 来てみて気づいたこと

弘前で1年半暮らしてみて、地方都市らしさと田舎らしさのある、ちよウどいい地域だなと思っています。東京のような都会ではないですが、お店は揃っていて、雑貨屋さんや、お洒落なカフェがある。自然を感じたいと思えば、車を走らせて自然に近い地域へ遊びに行くことができ、落ち着いて暮らせる地域だなと感じています。地域の人たちに目を向けてみれば、仕事以外で様々な活動をしている人が多いなと感じています。女性を中心になっているところ、世代を超えた繋がりを持てる団体など、様々な分野の中で、小さなグループがたくさんあるのだなと、来てみて知りました。

✪ お母さんたちの明るさ

現在、郷土料理の伝承活動をしているお母さんたちのグループに、協力隊の活動（仕事）として関わっています。昔から伝わる家庭の味を味わいたいという地元の方や、津軽ならではの郷土料理を食べたいという、国内外からの観光客の方に料理を

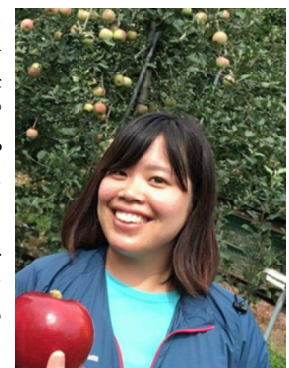
弘前市地域おこし協力隊 吉田 涼香さん

提供しています。調理活動に参加する度に、よく食べ、よく喋り、よく笑う、明るいお母さんたちが多いなと感じています。『ぐだめき』ながら（※文句を言いながら）も、家族のためにご飯を作らないといけないから早く帰るよ！というお母さんや、旦那さんとの笑いの絶えないエピソードなどを聞いていると、皆さんとても幸せそうです。

グループの会長さんがよく言う言葉があります。それは、「やりたいと思ったらやってみるの



郷土料理伝承活動、和やかな食事会の様子（右から4番目が吉田さん）と、お母さんたちと共に作った地元の山菜などを使った料理。

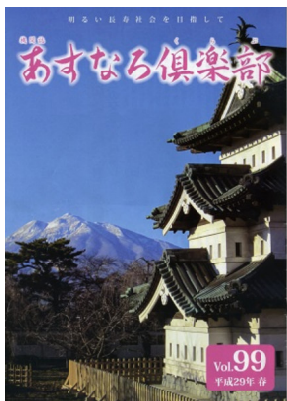


りんごの収穫作業の手伝いをする吉田さん。

✪ これから

地域おこし協力隊の任期は最大3年。残り一年半の任期の間も、お母さんたちと調理活動しながら郷土料理の普及活動や、実際に自分で調理をし、人に振る舞えるようになったらと思っています。また、お母さん達のように積極的に色んなことにチャレンジしていこうと思います！

が一番。やってみたいと分からないからね」という言葉。お母さんたちの話を聞いていると、昔からアグレッシブで、対外的な活動をしていたそうです。今も変わらず、とても活動的。家の中にこもらず、みんなで料理をすることの楽しさや、人前に出て話をすることの面白さ、料理を提供することのやりがいなどを感じているのではないかな、と思っています。



季刊誌「あすなろ倶楽部」
(平成29年春99号)

生きがいと健康づくり仲間づくりを
高年齢者の生きがいと健康づくり、仲間づくりを進めている青森県長寿社会振興センター所属の「あすなろ友の会」は、青森、八戸、弘前を含め、県内八支部あり、会員約七百名以上が、明るい長寿社会をめざして各種活動を展開しています。現在、主な活動としては、五年前から「青森シニアカレッジ」を開講(百五十名参加)、学習活動として福祉施設現場で実習、学習活動を通して、リーダー、サポーターを育成し地域活動を展開。毎年、ねんりんピックへの選手派遣と「あおもりシニアフェスティバル」の開催、今年からは「長寿な生活調査・発信事業」を始め、90歳以上の高

弘前市民参画センター利用団体紹介
あすなろ友の会 津軽支部

さて、弘前市はお城とりんど、桜の津軽藩の城下町とあつて伝統と歴史のある文化都市であります。県内の市町村では珍しく、「弘前市民参画センター」が弘前公園に近い市内中心部(弘前市大字元寺町一の十三)にあり、グループ活動に、或いは会議の打ち合わせに、学習など、気軽に利用できる施設として市民から喜ばれています。あすなろ友の会津軽支部でも、役員会議で

年齢者にインタビューして、季刊誌「あすなろ倶楽部」に発表しています。

お世話になっています。特に二階の「ふれあいホール」は、椅子とテーブルが数多く置かれ、しかも無料で開放されていると聞いて、大変な市民サービスに感謝している一人です。どの位、市民の利用状況があるのか調べたら、平成二十八年度一年間の利用状況では、三階(有料)のグループ活動室は、一万五千人ほど、二階のふれあいホールは一万八千人ほどで利用者の総数は二万五千九百四十人にのぼっていることが判り、市民の利用率が非常に高いのです。同市は、弘前駅前の「ヒロロ」にも、市

センター利用者に突撃インタビュー

60代・女性



◆センターの利用目的と利用頻度は?

気の合う人たちとフラダンスの練習をしているサークルです。人数は6人ほどですが、音楽に合わせてフラダンスの衣装を着て10~12時まで心地よい汗をかきながら踊っています。休憩時間は、お茶とおしゃべりに花を咲かせて和気あいあいと楽しんでいます。週1回毎週集まっています。

◆センターを利用してみた感想をお聞かせください。

昨年までは別の場所を利用していましたが、先生の都合で出来なくなったのでこのセンターを使うようになりました。場所的には通いやすく、料金が安く、職員の方は親切で優しく対応してくれて文句なしです。こちらに移って良かったと思っています。

◆センターに要望はありますか?

気持ちよく使わせてもらっているので特にないです。自分たちも音楽を鳴らしているので、ボリュームなどは隣で部屋を利用しているときには迷惑を掛けないように気をつけているつもりです。

◆「男女共同参画」についての感想をお聞かせください。

自分の若いころから比べてみると女性も社会進出が多くなり、学校の先生など職場で女性が多くなったと感じています。家庭では、自分の子が親になって父親の「イクメン」という言葉を聞きます。進んで子育てに協力している姿は自然になったと感じています。自分たちの子育てからみるとずいぶん変化してきましたが、柔軟に受け入れて違和感はないです。

◆「今一番」の楽しみは何でしょうか?

友だちとのおしゃべりや気の合う仲間と好きなことが出来ることです。そのためにも健康であることが一番の幸せと感じています。毎日楽しく過ごすことが健康である秘訣だと思います。



突然のインタビューに快く応じてくださいました。質問されたことに一つひとつ丁寧に笑顔で答えていただきました。とても綺麗で上品な感じといい、生き生きとしていて、自分もこうなりたかったです。無理かなア…(笑)
by のん



あすなろ友の会 代表幹事
弘前歩こう会 会長
本間 操

民が気軽に利用できる仕組みがあると聞いています。弘前市の市民サービスの心配りに感銘を受けた一人です。

市民参画センターからのお知らせ

★第7回市民ボランティア交流まつり

日ごろ市民参画センターやボランティア支援センターを利用してるグループが、展示や活動発表を通じて、訪れた市民やほかのグループ同士の交流を深めるために毎年開催しています。当日はパンやお菓子の販売、子どもに人気のバルーンアートの実演、スタンプラリーなどもあります。

是非ご来場ください！

テーマ

『つながろう！』

ここから生まれる地域のきずな』

日時：平成30年2月11日（日）

10：30～14：30

場所：ヒロロ（駅前町）3階

内容：各団体による発表・展示・体験・販売など



●休館日のお知らせ●

弘前市民参画センターは
12月28日（木）～1月3日（水）まで
休館します。



編集後記

先日、大切な人を空に見送りました。その人がいなくなってしまった寂しさと、まわりで支えてくれる人たちの優しさがとても身に染みました。いろんな人に助けられて生きているんだなあ。大切なことを忘れかけていました。謙虚な気持ち、感謝する気持ち、大事ですね。

（SW）

本の紹介

タイトル

「えんとつ町のプペル」

著者 にしのあきひろ
発行所 幻冬舎



～信じぬくんだ。たとえひとりになっても～

インターネット上で無料で読むことができる絵本ということで話題になった「えんとつ町のプペル」。今年春、弘前公園のお花見会場でパネル展示されていた絵を初めて見た。まるで光っているかのような絵に魅了されてしまった。話の内容は全く分からないままその場で絵本を買い求めた。

まずは絵本を開いてみる。4000メートルの崖に周りを囲まれた、えんとつだらけの町はそこかしこから煙があがり、あたまのうへは朝から晩までくろい煙でモックモク。えんとつ町に住む人はあおい空もかがやく星も知りません。そのような町でくり広げられる物語が「えんとつ町のプペル」である。

インターネット上では絵本だけではなくスライドショーで読み聞かせの動画を見ることもできる。それらもいいが、自分の手でページをめくりながら読むのもまたいい。とにかく大人でも十分に楽しめる絵本である。

夜空をかける配達屋さんが煙を吸ってせきこんでしまい、配達中の心臓をえんとつ町のうへでうっかり落としてしまったところからこの話は始まる。町はハロウィンまつりのまっただなか。町はずれのゴミ山に落ちた心臓にゴミがあれこれくっついて生まれたゴミ人間は変装した子どもたちとハロウィンまつりを楽しむが、ハロウィンが終わってもゴミ人間のまま。子どもたちにはバケモノあつかいされてしまい、誰も相手にしてくれない。

しかし、えんとつそうじ屋の少年ルビッチと出会い、「ハロウィン・プペル」という名前をつけてもらう。ふたりの友情と冒険が始まる。そして思いがけない結末が…

by komori

【参画だよりに関するご意見、ご感想をお寄せください】



弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/sankaku/>

（市民文化スポーツ部 市民協働政策課 市民参画センター発行）

